参考様式第５－１号

伊　農　第　５　３　４　号
令　和　８　年　６　月　26　日

農業経営基盤強化促進法第１８条第１項の規定に基づき、公表します。

伊賀市長　稲森　稔尚

市町村名 （市町村コード）	伊賀市 （　24216　）
地域名 （地域内農業集落	猪田 上之庄（字笠松・字西谷を除く）
協議の結果を取りまとめた年月日	令和7年10月30日 （第３回）

注１：「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

１　地域における農業の将来の在り方

（１）　地域農業の現状及び課題

・当地区では農業者の高齢化が進んでいるものの、地区内の水田の担い手農家は経営規模の拡大をめざしていることから、農地の受け手となり、今後も継続的に水田農地は維持される見通しである。
・当地区青蓮寺用水の畑地については、農業者の高齢化が進んでおり、後継者も不足することが見込まれるため、今後、遊休農地の増加が懸念される。このため、地域外から担い手農家や農業生産組織を受け入れ、農地の維持を図っていく必要がある。

（２）　地域における農業の将来の在り方

・当地区の栽培品目は以下のとおりである。
水稲
露地野菜（アスパラ、ウリ、里いも）
施設野菜（アスパラ）
果樹（ぶどう、柿、ブルーベリー）
その他（なたね）
・担い手経営体が規模拡大を進めるにあたり、より効率的に農作業を行えるよう農地の集積・集約化を進める必要がある。
・地区内農業者の経営安定を図るため、新たに地域の特産物として玉ねぎや白ねぎ等の導入を検討する必要がある。
・担い手経営体が規模拡大を進めるにあたり、より効率的に農作業を行えるよう農地の大区画化を検討していく必要がある。
・担い手経営体が規模拡大を進めるにあたり、より効率的に農作業を行えるよう農道の拡幅や水路の改修を検討していく必要がある。
・旧食肉センター跡地を地元農家が利用する米のライスセンター化に利用
・ため池について、岡波病院の二期工事に際して三ツ池の整備（えん堤の改修、あばけのつけかえ等）

2　農業上の利用が行われる農用地等の区域

（1）　地域の概要

区域内の農用地等面積	91.09 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	54.81 ha
（うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積）【任意記載事項】	― ha

（2）農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方（範囲は、別添地図のとおり）

・農業振興地域内の農用地及びその周辺の営農条件のよい農地を基本とする。

注：区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3　農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

（1）農用地の集積、集約化の方針

・農地中間管理機構を通じて、担い手農家へ農地の集積及び団地化を進める。

（2）農地中間管理機構の活用方針

・担い手農家の意向を把握し、できる限り団地化が図られるよう農地中間管理機構を活用して集積・集約を進める。

（3）基盤整備事業への取組方針

・農地中間管理機構関連農地整備事業を活用し、農地の大区画化・汎用化等のための基盤整備を実施する。

・地区内の農振地外の農道は狭く、ほ場近くに駐車することが困難であり農作業に支障をきたしているため、拡幅に向けて事業化を検討する必要がある。

・既存の井堰は老朽化が進み、メンテナンスに苦慮していることから、より機能性の高い水路への更新を

（4）多様な経営体の確保・育成の取組方針

・市やJAと連携し、地域内外から多様な経営体を受け入れ、地域に定着できるように農地のあっせんや栽培技術等の支援を行う。

（5）農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針

・猪田地区の農業を考える会が運営する「草刈り支援・協力隊」を活用し、農家の負担を少なくする。

・地域全体で取り組んでいる肥料・農薬の共同購入や稲の硬化苗の農協への申込みは、今後も「グループ共同営農」が行う。

・農協が行う防除ヘリによる農薬散布は、今後も「グループ共同営農」が協力する。

以下任意記載事項（地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください）

☑	①鳥獣被害防止対策		②有機・減農薬・減肥料	☑	③スマート農業	☑	④畑地化・輸出等		⑤果樹等
	⑥燃料・資源作物等		⑦保全・管理等	☑	⑧農業用施設	☑	⑨耕畜連携等		⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①侵入防止柵の設置

③AIやドローンを活用

④未整備農地のほ場整備

⑧旧食肉センター跡地を利用した共同の乾燥機・もみすり機を設置する。ライスセンター化。

⑨畜産堆肥を利用したアスパラ等の畑作物